報告要旨とディスカッション

「シンポジウムⅡ」21世紀自動車産業の国際戦略の行方

報告要旨とコメント・ディスカッション

開催日時：1999年12月1日（水）13：20〜16：30
開催場所：清光会館　清光ホール

講演要旨

本シンポジウムは，「21世紀自動車産業の国際戦略の行方」という共通テーマの下，日本自動車工業会企画室長星野譲氏，トヨタ自動車株式会社渉外部長藤井恒彦氏，いすゞ自動車株式会社営業プロジェクト室部長中村研二氏の3人の報告者，大島卓教授と上山邦彦教授の司会＆コメンテーターというメンバーで，成功裏に実施された。

第1報告（星野氏）は，まず，経済のグローバル化と大競争時代の到来，アジア経済の発展，日本経済の活力低迷，若年労働力の減少と高齢化，地域環境問題と地球環境問題の深刻化など，日本経済の変革を迫る環境変化を明らかにした後，経済・社会制度の国際的同質化，貿易政策における重商主義の台頭，経済政策の限界などに対応しつつ，国内雇用確保を重視し，日本経済を活性化しつつ，高齢化社会に合わせた社会・経済制度の見直し，環境規制の強化と環境対応制度の構築，安全規制強化とPLなどの日本経済における当面の課題を整理した。日本自動車産業も，こうした日本経済の環境変化を受けつつ，多くの課題をかかえているという。具体的には，国内市場の成熟化，国際戦略の進展，国際競争激化と競争力向上，情報通信技術革新への対応，環境対応，安全対応などの課題が指摘された。

第2報告（藤井氏）は，まず，1998年で5,256万台に達している世界の自動車市場は，アジアなどの途上国が近い将来モータリゼーション期に突入すること，それに対し，日本自動車産業は，国内では1990年をピークに停滞しているが，海外生産は着実に増大し続けていることを明らかにした。次いで，単独で売上高7兆5,000億円，従業員数7万人，連結でそれぞれ12兆7,000億円，18万人に達するトヨタ自動車の立場から，グローバル化への対応の状況，とりわけ世界戦略車として登場したヴィッツ，プラッツ，ファンカーゴのヴィッツ三兄弟を紹介した。さらに，環境問題への対応から迫られるエコカーやリサイクルへの取り組みの現状と展望などが明らかにされた。

第3報告（中村氏）は，まず，「400万台クラブ」への生き残りをかけたグローバルな再編が進められつつある世界自動車メーカーについて，GM，フォード，ダイムラー・クライスラー，

ルノー，トヨタなどを中心とするグループごとに，具体的に紹介された。次いで，こうしたグローバルな再編が，環境対策，部品メーカーの系列解体などと関連しつつ進展している状況が詳細に説明された。最後に，GM グループの一員として，特に商用車とディーゼルエンジンの開発・生産を担当することによって世界四極体制の確立を目指して着実に歩み続けているいすゞ自動車の現状が紹介された。

3人の報告が終了した後，コメンテーターからのコメント，それに対する報告者のリプライ，フロアー（学生）からの質問などの質疑応答が続いた。

（文責：上山）